

令和4年度第1回奈良市環境審議会の概要			
開催日時	令和4年11月18日(金)午後14時から16時まで		
開催場所	奈良市役所北棟4階402会議室		
出席者	委員	前迫委員、小松原委員、中澤委員、細谷委員、清水委員、東浦委員、小林委員、【計7人出席】 (欠席3人)	
	事務局	【環境部】前田参事 【環境政策課】穴尾課長、石飛係長、村井主務、島 【(株)エックス都市研究所】 大阪支店 青野環境エンジニアリング事業本部技師長 中部事務所 嶋影所長、宮浦研究員	
開催形態	公開(傍聴人 1人)	担当課	環境部 環境政策課
議題 又は 案件	1 奈良市環境基本計画推進会議の進捗について 2 ゼロカーボン戦略策定について		
決定又は取り纏め事項	1 奈良市環境基本計画推進会議の進捗について事務局より報告があった 2 ゼロカーボン戦略策定について事務局とエックス都市研究所より説明があった。		
議事の概要及び議題又は案件に対する主な意見等			
<p>1 奈良市環境基本計画推進会議の進捗について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奈良市環境基本計画推進会議座長の小松原委員より、今年10月に開催された第1回環境基本計画推進会議の進捗について、資料を基にその概要の報告がなされた。 ・小林委員より、大多数の市民や社会の環境への意識が上がってきていると感じるが、一方で、一部の反環境的な行動が市民意識の後退や施策進行の妨げになっているように感じる。行政としてより積極的な管理指導体制は出来ないだろうか、との意見があった。 ・小松原委員より、市民が動く前に行政の担当職員がどう動いているのかを明らかにすることが大切である、との意見があった。 ・前迫委員より、達成率5の割合が高いが、実績に実情が伴っていないように感じるため、評価シートの見直しが必要である。達成していない部分にも目を向けていくことも大事である、との意見があった。 ・小松原委員より、出来ない話にしっかりと目を向け、市民にも分かりやすい評価方法を開発 			

することが重要である、と意見があった。

- ・細谷委員より、自然環境分野の中に一次産業を含むことから、農村環境が小さく扱われていることに疑問を感じる。また、グリーンインフラや生態系を活用した防災・減災（Eco-DRR）についての議論もするべきではないだろうか、と意見があった。
- ・前迫委員より、今回の評価は10年前の区分となっているが、今後は現在の状況を踏まえて、項目の検討も行ってほしい、と意見があった。

2 ゼロカーボン戦略策定について

- ・事務局より、奈良市ゼロカーボン戦略策定の概要と、委託先について説明をした。
- ・エックス都市研究所より、プロポーザル企画提案書に沿って内容の説明をした。
- ・小松原委員より、業務実績として挙げられた村とは、地域性の点は異なると思われるが、どのような部分が奈良市に適用でき、有効性があると考えているか、また全国の市町村をどのように類型化し、奈良市の違いをどう捉えているか、という質問があった。
- ・エックス都市研究所より、自然素材をいかに有効に使うかというところを奈良市の東部山間部で応用できると考えている。市内中心部に関しては廃棄物処理施設が一つのエネルギーの基幹事業になると考えており、都市部については別の地域の事例を参考とし、複合型で取り入れていくと回答をした。
- ・細谷委員より奈良市の地域特性を十分に分析した上ですり合わせなければ、実効性は見えてこない。ソーラーシェアリングや調整池への太陽光パネルの設置とあるが、ソーラーパネル設置による景観への影響評価が抜けている。電力だけの問題ではなく、失われる自然を天秤にかける等、踏み込んで環境影響評価を行わなければ、奈良市の特性が損なわれるのではないかと、との意見があった。
- ・中澤委員より、太陽光パネルは赤外線を全く使わないため、パネルの周囲が暖かくなり発電効率が低下する。太陽光パネルの設置枚数に応じて木を植えるようにすれば、景観もよくなるし、温暖化が進んでいるため、熱対策はした方がよい、との意見があった。
- ・東浦委員より、家の屋根にソーラー設置しているが、壊れた際の廃棄費用や廃棄することが環境破壊にどう繋がるか、との質問があった。
- ・エックス都市研究所より、パネルの寿命は15年程といわれるが、廃棄の際の環境への影響が懸念される中、パネルのリサイクル技術等の今後の動向を見ながら判断する必要がある、と回答をした。
- ・小林委員より、新しい技術やシステムがあってもそれについていけない人たちや、経済的に手が届かない層が必ずいるので、どのような措置を講じていくのかという視点を必ず計画の中に入れて欲しい、との意見があった。
- ・エックス都市研究所より、技術は新しいものになるが、本来あるべき生活様式や昔の省エネに戻っていく点も意識しながら戦略の構想を練っていきたい、と回答した。
- ・清水委員より、今回は奈良市のゼロカーボン戦略の策定と、区域施策編の策定の2つの要素がある。ゼロカーボン戦略は先進的な目線での策定をお願いしたい。一方、区域施策編は、現行の技術でできる再エネ導入や省エネを市民に理解いただけるような計画の策定にして頂きたい、との意見があった。

- ・前迫会長より、災害が多発する中、強靱化やレジリエンスの部分をゼロカーボンに組み込み、どのように奈良に落とし込むか、といった部分が内容に反映されていない。もっと奈良の研究をした上で、奈良の風土等も踏まえてゼロカーボンを実現する必要がある。これらはどんな災害が起こるか分からないということと、地域の自然や文化、暮らしをベースにしてゼロカーボンを実施していくというような案を策定していただきたい、との意見があった。
- ・細谷委員より、今日の資料を見る限り、二酸化炭素ばかりで一切メタンの話が出てこない。目標を立てないまでも、特に農林部門は、稲作での水田から発生するメタンに対しても視野に入れておいた方がよいのではないか、との意見があった。
- ・東浦委員より、東部山間で現在耕作しているのは、平均 70 歳前後の方たちで、その代が農業を辞めたら東部山間で耕地はほとんどなくなるという問題もある。このように、東部山間地域は決して未来が明るい場所ではなく、何か施策を打たないとなくなってしまうということ、そしてそういう東部山間が奈良市の面積の半分を占めているという現状がある、との意見があった。
- ・中澤委員より、森林吸収シナリオに関して、森林が二酸化炭素を吸収するというのは分かるが、ただの草や雑草がどれだけ二酸化炭素を吸収し、どれだけ環境に効果があるのかについても、できれば計算してもらえるとよい、との意見があった。
- ・前迫会長より、技術革新だけでなく、自然の動きや、人の動きがどうなっているかということも含めて、奈良のゼロカーボン戦略だと見た人が思うようなものを目指して、2月に向けてお願いしたい、との意見があった。
- ・事務局より、次回は2月頃開催予定であり、改めて日程調整等ご連絡させていただく。また本日頂いた貴重なご意見は事務局の方で取りまとめ、今後の行政に反映する、と回答した。

資 料	<p>【追加資料】 令和4年度第1回奈良市環境基本計画推進会議 報告書</p> <p>【資料1】 環境基本計画 分野別施策指標評価コメント結果 令和4年度（令和3年度実績）</p> <p>【資料2】 環境基本計画 令和4年度（令和3年度実績）担当課自己評価シート</p> <p>【資料3】 「奈良市ゼロカーボン戦略」策定について</p> <p>【冊子】 奈良市ゼロカーボン戦略策定事業業務委託 企画提案書</p>
-----	--